

平成29年度入学式 式辞

厳しい冷え込みで例年よりも遅れていた桜の開花ですが、今日、この日に合わせたかのように、満開の花々が皆さんを温かく包んでいます。

本日、全国各地から、そして諸外国から、あわせて1954名の皆さんを、愛媛大学の新入生としてお迎えすることができました。「ご入学、おめでとうございます。」愛媛大学を代表し、心より歓迎いたします。

また、ご多用にもかかわらず、ご臨席を賜りました、各界からのご来賓の方々、愛媛大学校友会あるいは同窓会代表の皆様、名誉教授の先生方に厚く御礼を申し上げます。そしてまた、この佳き日にご列席をいただいた、新入生のご家族、ならびに関係の皆様方におかれましては、そのお慶びもひとしおのことかと存じます。心よりお祝いを申し上げます。

皆さんが入学される愛媛大学ですが、昭和24年に新制国立大学としてスタートし、今年で68年目、もうすぐ節目の70周年を迎えようとしています。本学は、7学部、6研究科、1万人近くの学生が学ぶ四国最大の総合大学であり、「学生中心の大学」、「地域とともに輝く大学」「世界とつながる大学」の実現を目標に、教育、研究、社会連携、国際連携の各分野において様々な取り組みを行っています。

昨年度から始まった第3期中期目標期間において、愛媛大学は、「輝く個性で地域を動かし、世界とつながる大学」をビジョンに掲げています。この目標を達成するために、「地域を担う人材の育成」、「産業イノベーションの創出」、そして「最先端研究拠点の強化」の3つの戦略を打ち出し、社会に役立つ人材の育成に向け邁進しているところです。お陰さまで、その戦略の方向性については、文部科学省の有識者検討会において高い評価を得ることができました。どうか、安心してこの大学で勉学に励んでください。

しかしながら、何年か先に巣立っていく実社会では、きっと様々な試練が皆さんを待ち受けていることでしょう。近年、グローバル化への反動、そして貧富の差の拡大などを背景に、「自国第一主義」を掲げる新たなナショナリズムの台頭が見られます。アメリカでのトランプ現象、イギリスのEU離脱などはその象徴であり、今後の社会動向はいたって流動的と思われます。

他方で、人工知能の著しい進化の中、「モノ」同士が情報を提供し合って活動を最適化するIoTの世界が現実のものとなり、現在の仕事の半分近くがAIによって不要となってしまうとさえ言われています。いわゆる「超スマート社会」の到来です。こうした社会変化に対応するためには、将来のビジョンを見据えた、柔軟で逞しい社会適応力を身につけてい

く必要があります。そこで、これから大学生活を始められる皆さんに、私から少しアドバイスさせていただきたいと思います。

大学生になってまず実行して欲しいのが自分自身の「アイデンティティ」の確立作業です。アイデンティティとは「その人の個性」、「その人がその人たる特性」と言えます。要は、自分自身のよりどころ、自分の強みです。決して、他人より優れていたり、他人が持っていないものばかりであったりする必要はありませんが、トータルとしての表現型が「らしさ」を持っているのが理想です。

この個性の確立作業を行うのに大学は最適の場所です。大学は、高校とは比べものにならないスケールのコミュニティであり、同級生や先輩、外国からの留学生、指導教員に職員など、実にいろいろな人たちが所属し、活動しています。愛媛大学の場合、その数は優に1万人を超えていますが、これほど多様な構成のコミュニティは近隣にもなかなか見あたりません。

是非、新入生の皆さんには、このコミュニティの中に積極的に身を投じ、自分で考え、行動する中で、自身のアイデンティティを確認してみたいです。「常識とは十八歳までに身につけた偏見のコレクションのことをいう」とは、かのアインシュタインの有名な言葉ですが、自らが行動の主体となる大学生活を迎える今、これまでの自分を「無」と考えて出発するのは一つの考え方だと思います。高校時代の自分を融解してくれるエネルギーは、大学での実習や講義、準正課教育、正課外活動であり、新しくできる友だち、そして恋人などでしょうか。要は、これまで自分が「常識」と思ってきたことを疑うことから始めてみることです。

一方で、自分を「無」にするということは、「カオス」の世界への出発だとも言えます。「カオス」とは「混沌」、あらゆるものが入り交じって個別に区別がつかない状態を指しますが、全てのものが入り乱れて整理がつかない「混乱」(コンフュージョン)とは似て非なるものです。「コンフュージョン」からは何も生まれませんが、「カオス」からは「秩序」と「調和」が生まれます。青春の象徴である「カオス」とは、今話題のiPS細胞のような未来への多能性、無限の可能性を秘めた状態を意味しているのです。

さて、「カオス化」によるアイデンティの確立作業では、自分という素材を一旦解体して部品化し、再構成することが必要です。自分自身を「スクラップ&ビルド」する中で強みを明確化していく作業は、数学の話にはなりますが、与えられた多項式から共通項を見出し、これを積の形に変える因数分解によく似ています。おそらく、高校生レベルでの個性というのは「多項式」、たとえば $ax^2+bx^2+ay^2+by^2$ というような荒削りな形で表現されているのだと思います。このままでは特徴は掴みづらいですが、「共通項」である $(a+b)$ をくり出すと、この多項式は、 $(a+b) \times (x^2+y^2)$ という積に因数分解され、特性が数段に

分かりやすくなります。これが大学生レベルでの個性の表現になると思います。是非、大学という大きな器の中で、自己を「カオス化」し、自分自身の強みを再確認してみましょう。

さて、個性を確立し、強みをさらに磨いていく上で、「未知の世界」との遭遇は極めて重要なステップです。「未知の世界を探求する人々は、地図を持たない旅行者である。地図は探求の結果としてできるのである。」とは、日本最初のノーベル賞受賞者である湯川秀樹先生の有名な言葉です。研究者としての、さらには人間としてのフロンティア精神の重要性を説いた、非常に示唆に富んだメッセージだと思います。

皆さんにとって、これからの大学生活はまさに未体験ゾーンの連続でしょう。未知と遭遇する、知らないことに出会う、すなわち困難に立ち向かう機会は何度も訪れると思います。そんな時、一番重要なのは決して逃げないことです。一旦逃げたとしても、より状況は難しくなって次の困難が訪れます。さらに逃げ続ければ、いつかは困難が来なくなるかも知れませんが、でも、その時にはとても大切な別の何かが失われています。危険を冒して前へ進もうとしない人、未知の世界を旅しようとしないうちに成長はありません。若者の特権とも言えるのが未知の世界への「アドベンチャー」です！是非、見果てぬ荒野を目指し、走り出してください。

最後になりましたが、「青春とはカオスである。カオス化の中で自己を確立しよう！」というエールを新入生の方々にお贈りし、本日の式辞の結びといたします。皆様のご健闘を心より期待しています。

平成29年4月6日

愛媛大学長 大橋裕一